# ならい生協連ニュース

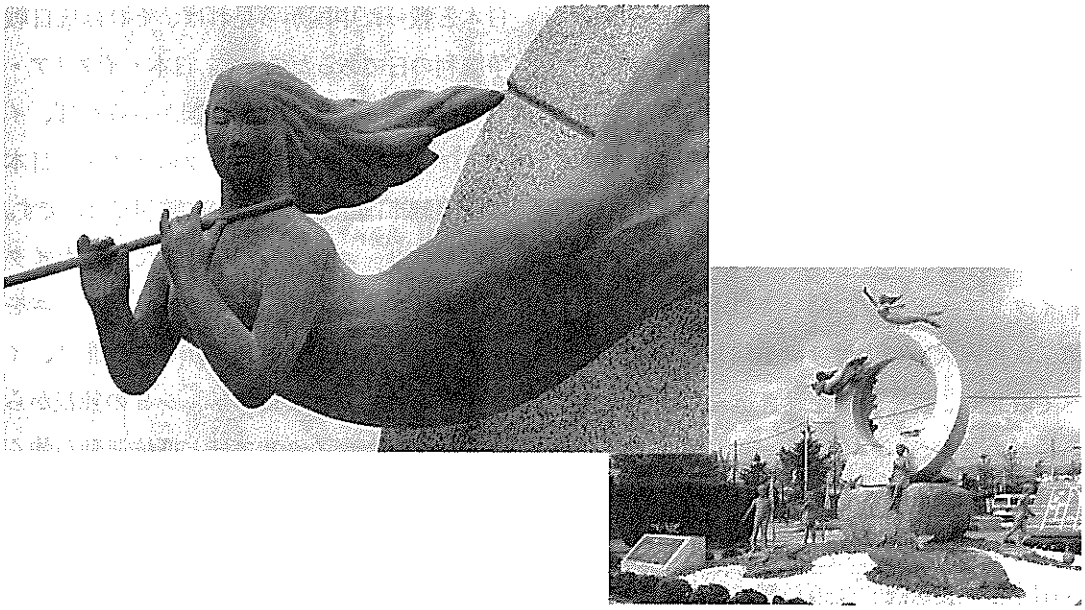
No.19
95.6.25



奈良県生活協同組合連合会
奈良市恋の窪1丁目2-2　ならコープ気付
☎(0742)34-3535
FAX(0742)34-0043


## 被爆・終戦５０年
## 核兵器も戦争もない平和な世界へ

奈良県下全市町村が非核都市宣言を行いました。そして各市町村に平和モニュメントが作られています。『市民』が平和の像として被爆・終戦100年を祝うことができるように今年の被爆・終戦50年を表現していきましょう。



天理市の平和モニュメント

彼等は決して「私は」といわない。自分がどうやって生き延びたのかは語らない。必ず「私たちは」と言う。彼等は死者たちの代弁者なのだ。
＜ユダヤ人のホロコースト（大虐殺）を描いた９時間半の映画「ショアー」のクロード・ランズマン監督の言葉より＞

# 被爆・終戦五十年

## －世界の目から考える－

奈良女子大学名誉教授　　中塚　明

50年前の８月、長い戦争が終わりました。しかばね累々、身内を失い、町は焼かれ、茫然自失。15年にわたる日本人の戦争犠牲者は史上空前の 310万人。その８割以上もの人びとが、1944（昭和19）年の秋以降、フィリピン・ビルマ・沖縄の戦場で、そして全国都市のあいつぐ空襲、ついには広島・長崎への原爆投下によって、わずか10カ月ほどの間に集中して亡くなりました。満身傷だらけ、文字通り「負けた」と日本人はそう思いました。

イタリア・ドイツに続いて日本が降伏し、第二次世界大戦の火付け役を演じた三国はすべて敗北し、長く世界を巻き込んだ戦争は終わったのです。

言うまでもないことですが、戦争には相手があります。日本・イタリア・ドイツと戦った国ぐに・民族は、この長期にわたる戦争で「勝った」のです。ぼう大な犠牲をはらって勝ったのです。とりわけ日本が仕掛けた戦争の主戦場であったアジア・太平洋上の島々では、日本の戦争犠牲者の数倍、 2,000万人もの人たちが日本軍によって殺されました。これらの地域では、日本が敗北して悪夢の日々は終わったのです。

19世紀の後半から日本の侵略をうけつづけ、ついに1910（明治43）年から36年にわたり亡国の日々を余儀なくされた朝鮮では、「1945年８月15日」は日本による植民地支配からの解放の日でした。1931年の「満州事変」以降、日本と戦った中国から見れば、それは抗日戦争勝利の日であったのです。日本・イタリア・ドイツと戦った世界の連合国からみれば、イタリアのファッショ・ドイツのナチス・日本の天皇制軍国主義との戦いに勝利したのです。

ムッソリーニの独裁に抵抗して戦ったイタリア人民は、自分たちの手でムッソリーニを逮捕し処刑しました。イタリアの敗北は、イタリア人民にとってはファッショの独裁からの解放でした。イタリアほど抵抗運動が強くなかったドイツでは、独裁者ヒットラーが自殺し戦争が終わったのですが、ドイツ降伏の日は、あの凶暴なナチス支配の終焉を意味しました。後にヴァイツゼッカー大統領は、降伏の日「５月８日はナチスからの解放の日であった」と言っています。

戦後50年の今年、私たちは日本の敗戦ということを考えるとき、こうした世界的な目を持つことがきわめて大切ではないでしょうか。こうした視野に立ってこそ、日本が仕掛けた戦争、そしてその敗北の歴史的意味もよりいっ

そうはっきりするからです。

日本では敗戦のとき、支配者たちがもっとも心を砕いたのは「国体の護持」ということでした。天皇制をいかに守るかということが最大の関心事だったのです。しかも、戦後アメリカの政策によって、天皇の戦争責任は追及されないことになりました。天皇制の支配の仕組みは戦前と大きく変わったものの、戦争遂行の最高の責任者であった天皇の戦争責任を問うことをしなかったために、日本の戦争責任はすべてウヤムヤにされたまま、今日に至っています。日本人の多くはそれほど気にしないでいるかも知れませんが、こんなことは日本と戦った世界の国ぐにの人たちから見れば、まったく納得のいかないことです。

日本のこうした特殊な事情は、戦後50年になって、あらためて戦前の日本がしたことを全面的に肯定するかのような風潮さえ生み出しています。奈良県選出で大臣もつとめたある有力な衆議院議員が、「私たちは植民地支配をした覚えはないんだ…私たちは朝鮮支配なんて考えたこともありません…朝鮮がよくなるように努力してきたもんです…」と、最近、ある雑誌で公然と言っているのを読みました。こんなことを言って南北朝鮮をはじめアジアの人びとはどう思うだろうかと、私は背筋が寒くなりました。

自国の侵略戦争の責任を曖昧にしたままでは、アメリカの原爆投下の不当制を徹底して追及することはできないと思います。侵略戦争の責任の自覚とその追及、その上に立っての非核・平和・民族主権の尊重など新しい国際秩序の原則を、日本国の意志として内外に明らかにし、その原則にもとづいて行動することこそ、被爆者をはじめすべての戦争犠牲者の無念をムダにしない道だと私は確信しています。

# 被爆・終戦50年にあたって

奈良県生活協同組合連合会　会長　　繁田　實造

わたしは「終戦」という言葉を使うことを好まない。編集者から与えられたテーマであるから冒頭に掲げたまでであって、つとめて「敗戦」という言葉を使うことにしている。その理由は、歴史を自分に都合のよいように解釈するのではなく、事実を事実として正しく認識すべきであると思っているからである。正しい事実の認識なしには、いかなる正しい判断も出てこないからである。

最近の新聞報道によれば、「終戦50年国会決議」をめぐって、「不戦・謝罪」という言葉の使用で争いがあるようである。

わたしは旧制中学二年生の夏に敗戦を迎え、ある意味では保護されるべき弱い立場に置かれながら、敗戦前後の大混乱に投げ込まれた経験をもっている。夏休みや年末・年始の休みもほとんどなく出校しながら、勤労奉仕にかり出されたため満足に勉強もできなかった経験、自身の大阪大空襲罹災体験、友人の爆死・爆傷体験、公然と行なわれた差別事件体験など、身近で生じた事実を正しく認識するかぎり、なにをおいても、まず、反省・謝罪、非核・不戦から出発せざるをえなくなるであろう。

われわれの行なっている生協運動においても、よりよい暮らしを追求するためには、その必須の条件として平和でなければならないことは自明の理である。戦争になれば、まず第一に、こどもや女性がその犠牲者となることも戦争体験から明かである。敗戦50年を契機に、特に平和ぼけとなっている方がたに対して、改めて平和について考えていただくことを強く訴えたいと思っている。

94市民平和行進あいさつする繁田会長

# 戦後に思うこと

奈良県地域婦人団体連絡協議会　会長　　坂上　有利

終戦から半世紀の月日が流れました。あの悲惨な戦争恐ろしい原爆…昨年11月私たち婦人団体の全国大会が広島市で開催され、３名の被爆体験者から証言されました。戦争を体験した私たちにはその悲惨さが身にしみて感じました。戦争はあってはならない……と全人類が願っている。そして次代を担う青少年にも語りついでいきたいと強く思いました。

終戦直後、日本の教育は、ガラリと一変いたしました。六・三制が施かれ、民主主義体制がひとときのまに実施され、私たちは生活に戸惑いを感じたものでした。その上、生活物資が欠乏し現代では想像もできない程の不自由な毎日でした。しかし女性は参政権を与えられ国家の再建に立ちあがりました。今日では女性の社会進出も多くなり女性の地位も向上しつつあります。

しかし、いつの時代でもそうであったかも知れませんが、それにしても世界の情勢にも日本の世相にもそして私たちの身辺にもこのままではたしていいのだろうかと思うことが次々に起こってきます。毎日が安心して暮らせる地域社会をつくるにはもっとお互いに思いやりの輪を広げ相手の立場を理解し合えるならばと強く心に思う今日この頃です。

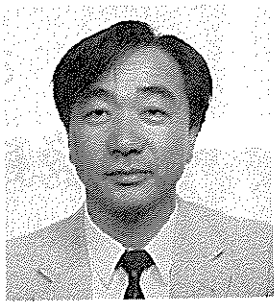
いつの時代でもどんな社会でもいえることは、親は子供に先輩は後輩に高齢者は後代にその生きてきた人生を語り継ぐことに意味があると思うのです。

今日ありあまる物資、飽食時代まだ使用できるものまで捨てる使い捨て時代、戦争を知らない世代とはいえ物の生命を尊重する精神に欠けているように思うのです。

地球の資源に限りがあることをわきまえ、すべての面に節約の精神を忘れないで高齢社会にむけて、心豊かな地域づくりに自分の出来る範囲内で社会参加をしていきたいと思っています。

第２回市民平和交流会（教育大生協）

# 被爆・終戦50年に当たって



## －奈良ＹＭＣＡ国際平和活動－

奈良ＹＭＣＡ　主任主事　　藤井　辰男

ＹＭＣＡはキリスト教精神に基づき、また、組織の国際性に於いて、国際平和の諸問題に積極的に取り組むべき使命を持っている。この使命を担って、奈良ＹＭＣＡでは、平和と公正の世界を目指し、本格的な活動を展開してきた。

1981年に、「10フィート運動奈良事務局」をＹＭＣＡに設置し、この運動のサービスセンターとしての役割を地域に果たすようになった。また市民平和講座の開催、原爆写真展、広島平和キャラバンによる反核・平和キャンペーン等の活動を実施した。これらの活動を基盤に、より積極的に国際交流と平和教育を促進することを目的に、1985年、国際・平和委員会を発足した。

委員会の設置により、1985年、第１回「反核・平和の集い」を開催した。この集いの目的は、人類の平和な共存を求め、核兵器の廃絶、戦争のない平和な世界の実現を目指し、過去の悲惨な戦争体験・被爆体験を風化させることなく未来に語り続けることにある。「被爆体験を語る」「沖縄戦の真実を語り継ぐ」等、これまでに様々なテーマを取り上げ実施した。今年は第11回を迎え、「中国残留婦人を迎えて」と題して、８月６日に開催する。この平和を求める集いが世界へと輪が広がることを切望したい。

また、ＹＭＣＡでは10月に「中国平和スタディツアー」を企画している。

今年は、被爆・終戦50年の年。再び侵略戦争の過ちを繰り返さないよう誓いを新たにし、平和と公正の世界の実現に向けて、これからも、国際平和の活動を永続していかなければならない。

ならコープ香芝ブロック委員さんたち

# 体にも、心にも原爆

左が筆者

わかくさの会　　大月　節子

終戦。主人は軍人を解除され、我を待っているだろう奈良、吉野、下市へと心は弾んでいた。私は被爆で心も体も自信は無かった。半病人のまま女学校の時の修学旅行の思い出を重ねて、楽しい夢を見て12月（昭和20年）に家族の反対を押して来てしまいました。

ご両親との初対面の挨拶「節子です。よろしくお願いします」父「そんな嫁、貰たの知らんな」母「わし、知らんわ」仕事の手も止めずに只々の言葉……何をしても無視……「日本は広いな」「遠いなぁ」「この月様の下に広島の実家もあるのになあ」…幾度も泣いたことだろう……同じ日本内でもこんなにも方言が通じないのかね。通訳がいるみたいだった。50年経てば世相も変わった。人間も変わった。交通も便利になった。日本中はおろか世界の事でも解るし見える。変わらぬと言えば8月6日に2㎞以内直接被爆で体にも、心にも原爆という獄印を受けた事。今でもはっきり覚えています。50年経ったとは思えませんよ。まだまだ目の前に幻燈のように写ります。人の影も、悲痛な声も聞こえ胸が痛くなる思いをしつつ語り続けています。

県内では私は原爆の被害者ですと言っても変な顔され通じませんでした。子供（一人は胎児）が小さい時、鼻血が出れば母さんが悪いからだ。病気がちだと母さんの子供だからだと言われた時期も有りました。それからは誰にも原爆という事は口にしませんでしたが、後遺症には色々と悩まされ、苦しみが続きました。信仰（弁天宗）に頼るしかなかったです。心のやすらぎです。

60年に初めて原爆わかくさの会が出来て、同じ境遇の方ばかりで安心しました。

昭和62年に又も体調が悪化し重体となり生死をさまよいました。言葉では話し残す事が出来ないので、原爆体験記（第二集）に子供に聞いて貰うつもりで書きました。あの時（62～平成2年）死んでいたかも……今度は余った人生だ。人様につくす仕事が残っているのだろう……この体で、小さな私で出来ることをしようと毎日が燃えています。本当に充実した日々に感謝して生きさせてもらっています。また、色々なボランティアに参加させて頂いています。

# 人間が人間らしく

ならコープ　理事　　横田　倫代

今はきれいな町となった広島。戦争の傷あとがなくなっている中、原爆ドーム、原爆資料館には原爆の事実が残されている。

私達は被爆者の体験を通してしか、その恐ろしさを知ることが出来ない。後遺症に悩む多くの人、また、健康や生命に不安をもちながら毎日を送っている原爆二世、三世がおられる。現在重い口をひらかれ語って下さる姿は、今があの日なのですね。こんなに辛く怒りに声をふるわせじっと耐えてこられた50年、身をもって「二度と繰り返してはならない」「被爆者は私達で最後にしてください」と。一度に何十万人を殺すという人間によって作られた核兵器の恐ろしさをしっかり伝えていかなければなりません。何のために戦争をしたのか、そのために人間が人間でなくなったこと、平和な世界をつくるために私達がしなければならないことをよく考えてみる必要があります。

沖縄でショックを受けたのが糸数壕です。最初は糸数住民の避難場所であったのが陸軍病院の分室になり、負傷した人が多い時で千人いた。米軍が近くまでくると病院は解散し、青酸カリや注射でみんな殺され数えきれない位の骨が壕の中のベッドに並んでいたそうです。私の立っている所を掘れば今も暗闇に眠っている犠牲者が多くおられると聞いた。

戦争の悲惨さをからだで感じることのできる広島、長崎、沖縄を一人でも多く訪れ平和の第一歩となり「平和とよりよき生活のために」を大きな目標として戦争を知らない私たち世代、被爆体験者の深い悲しみや本当の叫びにじっと耳を傾け、人間が人間らしく生きていくことの大切さを再確認できる年でありたい。

'94市民平和行進より

# 敗戦50年の節目に真の平和を

ならコープ　平和の会代表　　門脇　元子

被爆、敗戦50年の今年。私たちは、真の平和な明日を創造するスタートの年として、あらためて戦争とは何か、を事実に照らして学びながら、伝えていかなければなりません。決して、戦争を「忌まわしい過去のこと」として目を逸したり、風化させてはならないのです。

敗戦からの50年。日本は戦争責任や戦後問題（国際的にも）もそこそこに高度経済成長をひた走り消費を煽り続けました。その結果物が氾濫する中で消費ニーズは多様化し、すべての価値基準が経済に変えられました。人々は戦争で失ったもの、傷つけてきたことを繁栄のなかに忘れたのです。多くの人たちは今を「平和な時代」と疑うこともなしに、安穏と暮しています。

激動する国の内外は勿論、突如として国が変わる歴史との遭遇などで、人々の期待する平和もさまざまに交錯しています。なかでも平和憲法をも一様には語れない、という事態に至っては、これから向かう新たな50年への平和に脅威すら覚えます。私たちは戦争への反省、そして真の戦争責任をこの時期、歴史的事実に対して誠実に問うことを、強く求めていかなければならないと思います。

15万世帯の台所ともいえる「ならコープ」そこに大きく育っている「平和」に誇りを感じるとき、ゆるやかに平和憲法が歪められようとしている50年に敏感にならざるを得ません。経済の優先から、生命との共生きという原点に立ち戻ることこそ、平和に本来の活力が漲り、元気が増すのではないでしょうか。

# 第７回　通常総会開催される

## －新しく県立商科大学生協を迎えて－

５月27日（土）午後３時より共済会館やまとに於いて45名の参加者で行われました。

来賓として日生協・関西地連の内堀伸健氏、奈良県生活環境部県民生活課・課長藤田和弘氏、奈良県立商科大学生協・理事長野村宏氏、奈良県協同組合連絡協議会の武内哲夫氏をお迎えしました。

総会開催にあたり挨拶する繁田實造会長

第１号議案　94年度活動報告と決算報告及び監査報告承認の件

第２号議案　94年度剰余金処分案承認の件

第３号議案　95年度活動計画及び予算案承認の件

第４号議案　95年度借入最高限度額承認の件

第５号議案　役員補充の件

第６号議案　会費規定改定の件

第７号議案　その他　特別決議

以上の議案について、反対０・保留０・賛成18（委任４）で、全議案が可決・承認されました。

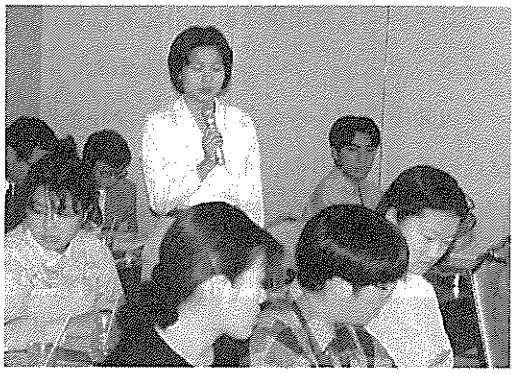
新規加入生協である奈良県立商科大学生協の野村宏理事長、堀田新五郎専務理事、また毎年議長を務めていただいた労済生協の中井正道氏にお礼の意味を込め花束を贈呈しました。

左から瀧川専務理事、藤田課長、内堀氏

左から野村理事長、堀田専務理事、中井氏

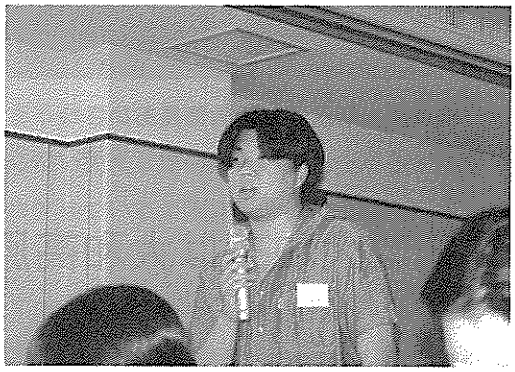
# 各単協から、活動の報告がありました。

労済生協の木村孝代議員



女子大生協の谷中千裕代議員

ならコープの谷川規矩子代議員



教育大生協の柴田貴之代議員

県立商科大生協の北岡宰代議員

特別決議を朗読する教育大生協の舟瀬純子代議員

奈良県協同組合連絡協議会、奈良県農業協同組合中央会、奈良県森林組合連合会、奈良県生活学校連絡協議会より祝電を頂き、また、5単協、22連合会からはメッセージをいただきました。

# 環境フェスタinなら'95

6月7日（水）午後1時30分より桜井市中央公民館において第3回奈良県環境フォーラムが行われた。

「包装廃棄物を考える」をテーマに金蘭短期大学教授・吉村哲彦氏の基調講演の後、4人のパネリストによるパネルディスカッションが行われ、パネリストとして奈良県連大國事務局長が生協のとみを紹介した。

奈良県生活環境部若竹部長あいさつ

奈良県連大國事務局長

# 大和茶は大和高原の雲につつまれ、育ちました

## 協同組合連絡協議会としてＪＡ中央会の案内で見学会を行ないました。

新茶の便りが届きはじめた5月15日、大和茶の第1回入札販売が開催された。

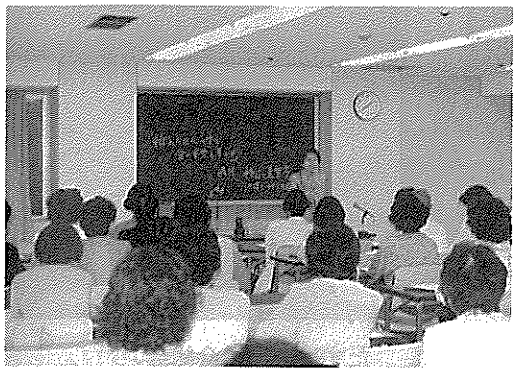
また、4月8日に竣工式を終えたばかりの「グリーンウェーブ月ヶ瀬」のハイテク工場で加工されたお茶も私たちの食卓にのぼる。

入札風景を見学中の、ならコープ理事

あいにくの雨の中、茶摘みを体験

## 「食の安全を考える」学習会開催される

5月19日（金）午後1時30分より奈良商工会議所会館に於いて、「輸入自由化の中で食の安全を考える」をテーマに弁護士の神山美智子氏の学習会が行われ、参加者は63名であった。

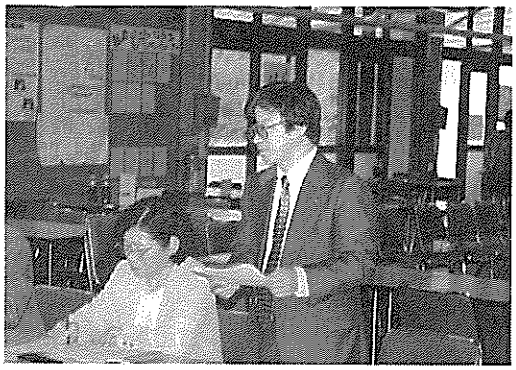


－アンケートより－

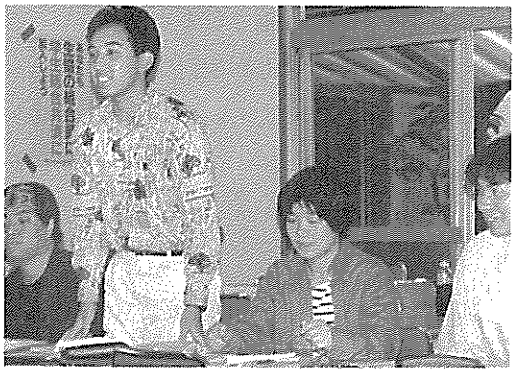
あまりにも私たち消費者が無知であり、知らなさすぎると思った。神山先生の言われるように「法律を決める前に国民にオープンにするしくみづくり」をしなければいけないと思う。しかし私たち一人一人の力はあまりに無力なので改めて生協などのような団体（消費者）のみんなの力が大切と思う。

## 組織活動担当者研修会開催される

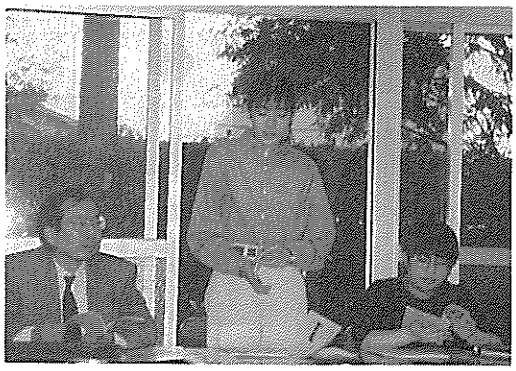
5月31日（水）午後5時より教育大生協に於いて、奈良県生活環境部県民生活課から青山明彦主査の参加をいただき、出席者18名で行われた。



ならコープ組合員活動部村城正理事



教育大生協の学生委員の方々



小林専務理事と女子大生協の学生委員の方々

# 県連活動Are・Kore

## 奈良教育大学生協

5月19日に総代会を開催し①新課程をはじめ各専攻に対応した取り組み②快適な店舗ホールづくり③協同を育む④中期計画の策定の4つの柱の方針を確認しあいました。

また6月には、早速“みんなでやろう栄養チェック”と題した食生活相談や映画上映会、7月には空調設置を記念したビアパーティーなどを取り組む予定にしています。

95年度にはこうした取り組みを通して組合員の参加と実現実感が広がる生協づくりをすすめたいと思います。

(疋田専務理事)

ならコープの店舗に設置された
ペットボトル回収箱

たすけあいの会総会

## ならコープ

新年度の地域委員会がスタートし、産地見学が行われます。この期間に例年約1500名の方が、直接生産者との交流、学習を深めます。9月の班長会では、知ったことを知らせる取り組みへとひろがります。

被爆終戦50年の節目に当たる年です。平和行進は5／7に東京夢の島を出発し6／25～6／30に奈良県を歩きます。

いわさきちひろ展は、『世界のこどもみんなに　平和としあわせを』をテーマに、4日間（7／16～7／19)開催されます。

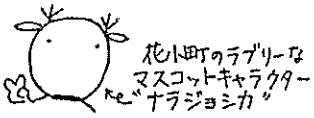
例年6月を環境月間とし、『リサイクル、リデュース、地域貢献』をテーマに取り組みます。6／4のごみ拾いハイキングや各事業所周辺のクリーンキャンペーンなどに取り組みました。

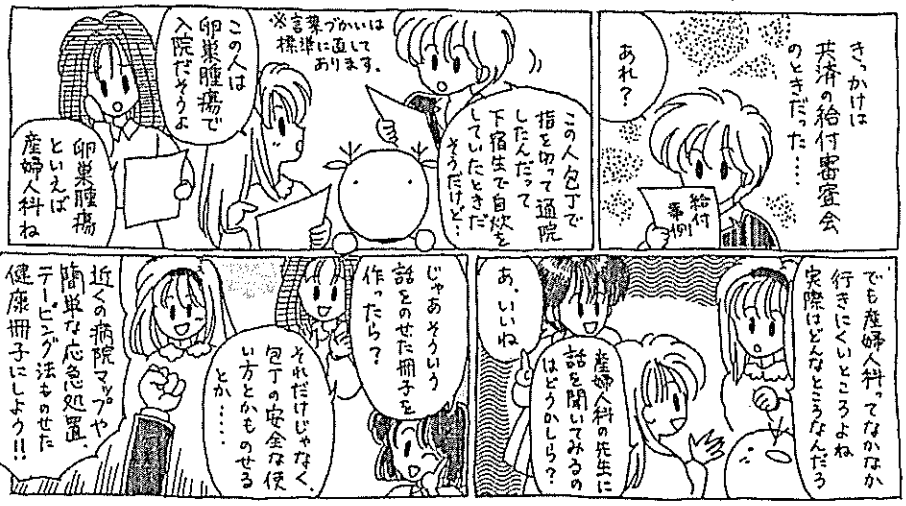
福祉の分野では、『福祉政策プロジェクトの答申』が出され、いよいよ本格的に福祉の取り組みを強めることになります。

(組合員活動部・新田課長)

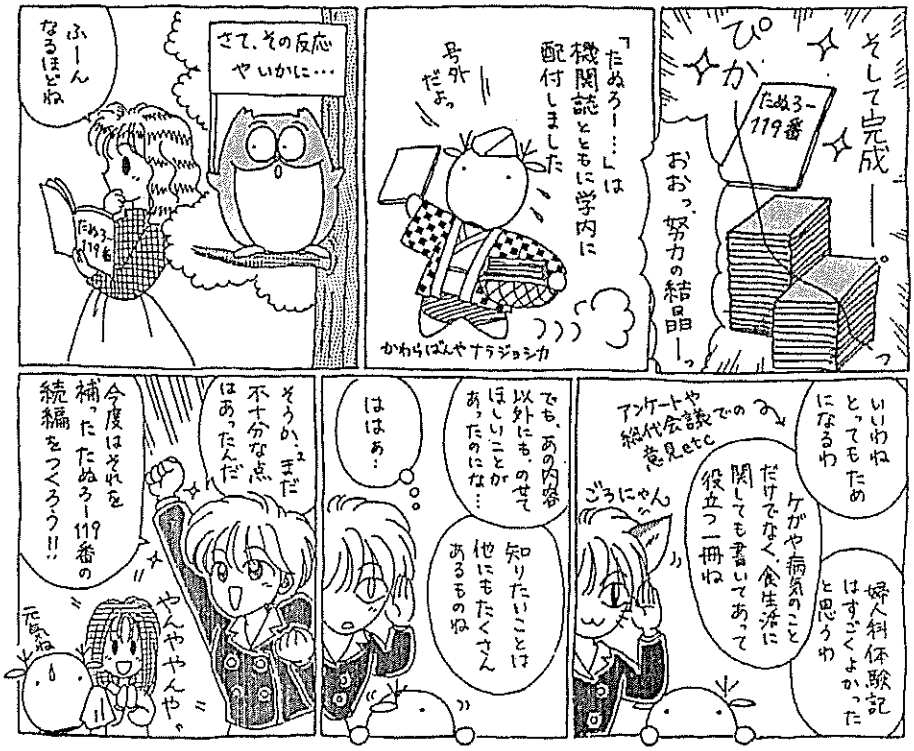
## 奈良女子大学生協

奈良女子大学生協学生委員会「花小町」
たぬろー119番をつくりました！




こうして「たぬろー119番」を作ることとなったのです。



# 県連日誌

4/4第３回府県連協議会
4/13日生協地区別代議員会議
4/20第11回関西地連総会

5/8監査
5/16協同組合連絡協議会事務局会議
5/18第６回理事会・行政協議会
5/19食の安全を考える学習会（神山美智子氏）
5/27第７回県連通常総会
5/31組織活動担当者交流会（教育大生協）

6/3関消懇世話人会
6/7県環境フォーラム
6/15～16日生協連第45回通常総会（専務理事）
6/25～6/30「95奈良県市民平和行進」
　6/25(日)般若寺→ならコープ本部
　6/26(月)県庁前→大仏殿横広場
　6/27(火)郡山三の丸緑地→コープいまご
　6/30(金)王寺町アリーナ→三郷コミュニティセンター

## －お知らせ－

### 反核・平和の集い

日時　８月６日（日）13:30～15:30
会場　奈良商工会議所５階大ホール
テーマ　「中国残留婦人を迎えて」
　　平和メッセージ
共催　奈良ＹＭＣＡ、奈良県生協連合会、
　　奈良県日中友好協会、「再会」奈良公演実行委員会、他

### ５周年記念奈良県生協大会

日時　７月15日（土）10:00～14:00
会場　ならコープおしくま店大会議室
テーマ　協同の力をすみずみの町へ
　　武内哲夫氏講演と各生協活動発表

### 奈良県第３回協同組合デーのつどい

日時　７月３日（月）14:00～17:00
会場　ならコープ物流センター
内容　各協同組合より報告

申し込み問い合わせは
　奈良県生活協同組合連合会
　　TEL0742-34-3535まで